

お客様の声に耳を傾け、ものづくりを通して課題解決を提案しています。

「自分の生活が好きな色彩によって包まれたと思うのが私たちの念願」だと創業者 高橋義博は考えました。お客様のもっと自由に彩りたいというその願いを叶えるために研究開発を進めてきました。

創業88年「価値創造」の軌跡

the beginning

1931

彩華顔料合資会社として創業



創業者 高橋義博

1938

紺青・黄鉛・染付顔料・アゾ系顔料の本格生産開始

1939

彩華色素工業株式会社に改称

1944

同業2社を吸収合併し、大日精化工業株式会社に改称
オフセットインキ事業に参入

1948

塩化ビニル用着色剤を開発上市、プラスチック用着色剤事業に参入



当時の本社ビル

1950

ビニルシートインキを開発上市、グラビアインキ事業に参入

1953

合成繊維原液着色剤、織布用捺染着色剤事業に参入

1955

オレフィン樹脂用着色剤上市

1967

ウレタン樹脂事業に参入

1969

東京証券取引所市場第一部に上場



第1期工事竣工時の東海製造事業所

1972

大日精化(香港)有限公司を設立

1974

台精化学工業股份有限公司を設立

1975

プラスチック用CCM技術を発表

1976

紫外線硬化型コーティング剤事業に参入
三宝精密化学工業株式会社を設立

1977

エスタ・ファインカラーCORP.を設立

1984

ダイカラーイタリーS.R.L.を設立

1985

天然物由来高分子事業に参入

1988

ハイテック・カラーINC.を設立



1989

イントルサ(現・ダイカラーケムEU,S.A.)をM&A
プラロイMTD B.V.を設立
大日カラー・タイランドLTD.を設立

1994

上海三井複合塑料有限公司を設立

1995

PT. ハイテック インキ インドネシアを設立
東莞大日化工廠有限公司を設立



1997

大日精化(香港)化工廠有限公司を設立

2002

大日精化(上海)貿易有限公司を設立

2003

大日精化(上海)化工有限公司を設立



2005

大日精化貿易(深圳)有限公司を設立

2006

大日カラーベトナムCO.,LTD.を設立

2008

大日カラーインドネシア・プライベートLTD.を設立



2013

DMカラーメヒカーナS.A.de C.V.を設立



2016

亞祿股份有限公司を子会社化

2017

茨城県坂東インター工業団地に工業用地を取得

■ 顔料の国産化を目指し創業

創業者 高橋義博は戦前、顔料の多くを輸入に頼っていたことを憂い、1931年に顔料の国産化を目指し彩華顔料合資会社を創業しました。顔料はそのままでは使いにくく、顔料を普及させるためには使いやすい形にしなければならないと考え、研究開発を始めました。

1944年に同業2社を吸収合併し大日精化工業に改称、現在のベースができました。

■ 技術開発・生産体制が整備され、国内市場へ浸透

第二次世界大戦後、再スタートを切った当社は「合成樹脂着色剤」「顔料捺染着色剤」「化・合繊原液着色剤」の研究開発を戦後計画の3本柱としました。

1953年までに3本柱として掲げた技術開発が確立し、1968年に磐田工場(現東海製造事業所)が完成しました。ここから本格的に国内市場へ浸透していきました。



1950年頃の東京製造事業所正門付近

■ 「国産化」の技術を海外市場へ展開

1980年代から、日本企業の海外進出が積極化するなか、そのニーズに応えるため、展開エリアを拡大していきました。

現在では世界14の国・地域に21営業・生産拠点をもち、世界中のお客様の開発ニーズに応える体制を構築しています。

TOPICS 2018-2019

需要動向に対応した生産拠点の拡充

当社グループは「持続的な成長と中長期的な企業価値創出のための4つの施策」として、「海外売上高比率50%の達成」と「国内生産体制の拡充」を掲げています。

海外売上高比率50%の達成

タイ王国は自動車産業の集積地域で、また家電やOA機器などの各分野が進出しています。これらに使用される樹脂コンパウンドやプラスチック用着色剤などの需要増加に対応するため、大日カラー・タイランドLTD.では将来的な拡張も見据え、既存工場との効率的な運用が可能な新工場の建設を進めています。稼働開始は2019年11月を予定しています。



大日カラー・タイランドLTD.新工場完成予想図

国内生産体制の拡充

パッケージ分野、紫外線・電子線硬化型コーティング剤の需要拡大に対応するため、茨城県坂東市に取得した用地での新工場建設計画を2019年6月12日に発表しました。この拠点では効率の高い新設備、省人化設備の導入、適切な設備配置など、技術や生産面での効率アップを進めます。稼働開始は2021年7月を予定しています。



坂東製造事業所完成予想図

私たちが提供する価値

大日精化グループは、化学業界において川中に位置しており、お客様を通じて新たな製品を開発し、供給する役割を果たしています。取り扱い製品は色材、機能材、合成樹脂、天然物由来高分子など多岐にわたっており、自動車・電気機器・建材などの部品から日常生活に関連する繊維・パッケージ・情報関連素材まで広範囲な製品に活用されています。

さまざまな分野での企業活動を通じて、お客様や社会の課題解決に貢献することで、持続的な成長と中長期的な企業価値の創出を目指していきます。

大日精化工業の価値創造プロセス Value Creation Process



当社グループは、経営に関して以下の方針を定め、事業活動の基本としています。また、経営指標についても共通の目標を設定し、その達成に向けて取り組んでいます。

持続的な成長と中長期的な企業価値創出のための4つの施策

- 1 海外売上高比率 50%の達成
- 2 国内生産体制の拡充
- 3 発展分野の研究開発に注力
- 4 新システム活用

1 海外売上高比率50%の達成

「攻略市場と戦略製品の選択と集中」を図ります。生産拠点の再構築も検討し、グローバルな視点から適材適所の拠点化を進めます。

アメリカ

2019年度内にウレタン樹脂新工場稼働

タイ

2020年初頭に樹脂コンパウンド新工場を本格稼働



建設中の大日カラー・タイランドLTD.新工場

海外のM&Aも検討し、シナジー効果の期待される案件ではスタートアップ企業への参加も選択肢として進めていきます。

3 発展分野の研究開発に注力

MOT*の手法を導入し、既存分野に新たな技術を投入し、技術開発を促進します。同時に、業界の発展分野である次の「4つの重点ターゲット」に対し、長期的視点に立った技術開発を検討していきます。

- | | |
|-----------------|---|
| 1 環境分野 | <input type="checkbox"/> CO ₂ を原料としたウレタン樹脂 |
| | <input type="checkbox"/> 生体模倣樹脂 |
| 2 エネルギー分野 | <input type="checkbox"/> カーボンナノチューブ分散体 |
| | <input type="checkbox"/> 電池用材料 |
| 3 パーソナルケア分野 | <input type="checkbox"/> 化粧品用材料 |
| | <input type="checkbox"/> バリア接着剤 |
| 4 IT・エレクトロニクス分野 | <input type="checkbox"/> 高機能ポリマー |
| | <input type="checkbox"/> 機能性顔料 |

*MOT(Management of Technology):企業及び研究・開発部門が、持続的発展のために、技術が持つ可能性を見極めて事業に結びつけ、経済的価値を創出していくマネジメント

2 国内生産体制の拡充

成長するパッケージ分野、紫外線・電子線硬化型コーティング剤の事業課題に対し、茨城県坂東市に取得した用地に新工場を建設中です。この拠点では効率の高い新設備、省人化設備の導入、適切な設備配置など、技術や生産面での効率アップを進めます。



赤羽製造事業所から佐倉製造事業所への移転が完了し、本年4月より生産プロセスの改善、増産対応、新規開発品の生産対応など、新たな生産体制で運営しています。当事業の研究・開発部門についても、2021年中に集約する計画としています。加えて、防災管理、安全管理などの面について、組織の再編拡充を含め、より一層強化していきます。

4 新システム活用

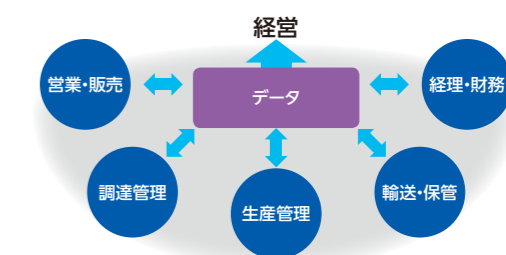
新基幹システムの活用

2018年10月に導入した国内及び導入済みの海外拠点については、システムを活用し、合理的な事業運営を進めていきます。未導入の海外拠点については、本社システムとの経営情報の共有を目指し、適切と思われるシステムを順次導入する予定です。

国内物流システムの合理化

3PLシステム*を活用し、上昇する輸送コストや在庫コストを最小限に抑制するとともに、サービスの向上を図ります。また、導入した上記基幹システムを活用し、物流費の分析を進め、一層の合理化を図ります。

*物流業務を特定の専門事業者に包括的に委託するシステム



目標とする経営指標 当社グループは、総資産の効率的な運用を行い、収益力を高め、財務体質の改善・強化を図るため、ROA(総資産経常利益率)5%以上を達成することを主な経営目標に掲げています。